

2024年12月27日

タツ・青木氏率いる AIRMW による Reduction 10 周年記念公演をシカゴ現代美術館で鑑賞。和太鼓の重低音とロック系の音色が不思議と調和する。アジア系・日系の伝統音楽と現代音楽の橋渡し・融合を目指しているという。左は帰路に見かけた市内のクリスマスツリー。



1 シカゴ日米協会のファンドレイジング忘年会（12月4日）

忘年会はシカゴ日米協会にとっての最大行事。今年は、フォトスタンド、オークション、お土産等が、シカゴと姉妹都市関係にある大阪をテーマに統一。来賓のジョン・マロット元大使（元大阪総領事）も「半世紀の外交官生活を終えて故郷に戻ってきた。自分にとって特別の場所である大阪とシカゴとの繋がりをお祝いしたい。能のようにポーカフェイスな東京と異なり大阪は歌舞伎のように表情豊か。建前の東京と異なり大阪は本音」と挨拶し、会場を沸かせていた。

基調講演者は実業家の藤田浩之氏。「未知なことでもまずはトライすべき。完璧を求めると時間だけが過ぎ去る。まずはトライしフィードバックをもらって修正改良しながら進める。その過程で新しい視座も出てくる」「分断が進む社会の中でも対話が続けることが重要」そのようなお話をされていた。オバマ大統領に絶賛され、日本人として初めて一般教書演説に招待された人物。玉著『道なき道を行け』の中で、22歳で米国に渡った御自身の軌跡をつづり、日本の若者にエールを送る。私と同年。好奇心旺盛で、大志をのぞかせる。お会いするのは4回目だが、毎回エネルギーを頂いていることに感謝。



マロット元大使(元大阪総領事)(右端)



藤田浩之さん(右側)

2 12月7日、真珠湾から83年

12月7日、シカゴの退役軍人協会とナイチンゲール協会の共催で毎年開催されている真珠湾記念式典。歴史を記憶すること、それを超え越えた和解、日米間の友情と協力と連携が強調される。全ての参加者が歓迎され、穏やかな安心感と和やかな空気が広がる。そんな中、私からも、犠牲者への祈りと戦争の惨禍を繰り返さないという我が国の誓いを述べ、8年前の安倍総理とオバマ大統領の真珠湾訪問に言及し、米国の「寛容の精神」に対する日本人の感謝、「和解の力」の必要性について基調講演の中で述べた。

12月13日、在日米軍経験者をお招きしたレセプションを開催した。日本駐留経験のある退役軍人の方々は日米間の信頼と友情の絆を体現。そんなお一人お一人のストーリーと御経験を伺う。沖縄駐留経験がある海兵隊女性退役軍人のキフオイト・イリノイ州議員は、御子息も海軍で横須賀に駐留しているという。



真珠湾記念式典



在日米軍経験者をお招きしたレセプション

3 日系人組織、シカゴ定住者会の“Forever Home”

シカゴ定住社会（JASC：Japanese American Service Committee）は、1946年、強制収容所からシカゴに辿り着いた日系人の住居や仕事などのニーズに応える目的で設立された。高齢者向け住宅を含む社会福祉サービスの提供、日本語や日本文化の継承、日系人の歴史やレガシーの伝承を担っている。日系人社会にとって不可欠の存在。

その新拠点となる建物のフルリノベーションが終わり、12月12日に落成式を迎えた。来賓・関係者など約250名が参列する中で、「日系人を歓迎するホームを創る」との10年越しのミッション実現を見届けてマイク・タカダさんがCEOを退任。新CEOにコートニー・サカイさんが就任。バイデン大統領のメッセージも披露された。

12月14日、早速、恒例の“Holiday Delight & Kodomo Matsuri”が新建物内で行われた。様々なコミュニティから、様々な世代と背景の人が集い、交流を楽しんでいる。こうして何世代にもわたる“Forever Home”になっていくのだろう。皆さんが願うように、JASCのリーチとコミュニティの概念が拡大していく中で、日系人社会だけではなく、日系人社会と関わりたいと思う全てのコミュニティにとっても。

様々な人々が交流を楽しむ中で、長年にわたり日系人社会を支えてこられた功労者であるマイク・タニムラさんとケイ・カワグチさんのお二人に外務大臣表彰を授与。御両人は「やるべきことをしてきただけ」「コミュニティの皆さんのために受賞しているだけ」と御謙遜。コミュニティの皆さんは自分のことのように祝福していた。



落成式（Ribbon Cutting）



タニムラさんとカワグチさん

15日、世界で3番目、ワシントンDCに次いで全米2番目の規模になるシカゴ郊外のホロコースト博物館。そこで特別展”Resilience-A Sansei Sense of Legacy”がオープン。1942年2月に発出された大統領令9066号による強制収容の歴史が日系人に与えた深い精神的苦痛や諦めの気持ちなどの影響を、8人の日系3世アーティストが芸術作品で表現している。オープニングでは、アーティストの一人であるクリスティーヌ・ユキ・アオノさんとマイク・タカダさん（シカゴ定住者会の前CEO）のお二人が、強制収容の歴史が日系人に与えた影響と展示作品について語った。

当時の日系人の心の内を綴った言葉も展示されている。

Shikata ga nai: it cannot be helped

Gaman: enduring the seemingly unbearable with patience and dignity